

ファミリーマートの食品リサイクル

業界初のリサイクル・ループで
つながる販売・回収の輪

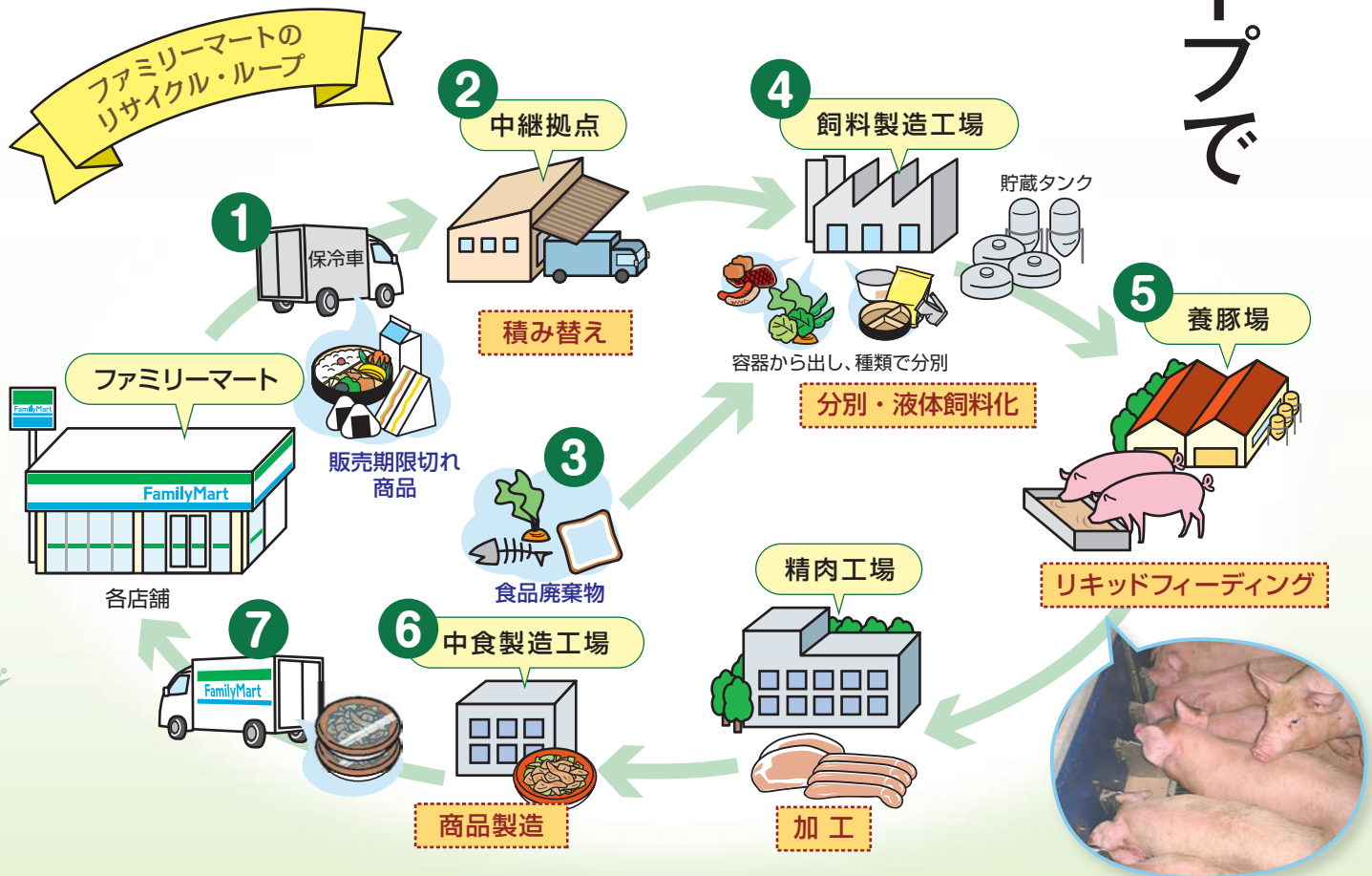
常に新鮮な商品がお客さまに提供される一方で、販売期限を迎えるお弁当やおにぎり。ファミリーマートではこれまで生ごみとして処理されてきた販売期限切れ商品を有効活用しようと、それらを資源に飼料をつくり、その飼料で育った豚肉のお弁当を発売。生産・販売と回収が結びついたリサイクルの輪を完成させました。

リサイクルの取り組みを
目に見える形で

ファミリーマートでは、生ごみとして処理されてしまう販売期限切れ商品を有効利用しようと、1999年から「生ごみ回収リサイクルシステム」を始めました。生ごみを店舗から回収し、処理工場で肥料や飼料の原料に加工しています。また、フライドチキンやポテトなどの調理油も回収し、飼料や石けん等の原料へのリサイクルも実施してきました。

現在、生ごみ回収リサイクルシステムは900店以上、調理油の回収は使用するほぼすべての店舗で行われています。さらに、2002年からは店舗に生ごみ処理機を設置し、生ごみの減量にも努めています。

「このように食品リサイクル（Ⅱ9ページ参照）に取り組んできたのですが、リサイクル地域の拡大に時間がかかることや、リサイクルの効果が見えづらい傾向がありました。もっと皆さんの目に見える形で、リサイクルをさらに推進できないか――」



ファミリーマートのリサイクル・ループで液体飼料化と養豚（リキッドフィーディング）を担当する企業の一つ、（有）ブライトピック千葉（千葉県旭市）。



その取り組みの成果が、千葉県内のファミリーマート約300店舗で今年5月に販売された『豚焼肉丼』です」（社会・環境推進部マネージャー 高橋哲さん）

このお弁当は「千産千消（地産地消Ⅱ9ページ参照）」をテーマに千葉県産の豚肉としょう油を使うだけでなく、東京都内120店舗から出る販売期限切れ商品などからリサイクルして作った飼料で育てられた豚肉を使用しています。店舗から出た販売期限切れ商品を養豚業者が飼料にし、豚を飼育してそれを再び店舗が購入する仕組み（リサイクル・

千葉県内のファミリーマート約300店舗で2009年5月に販売された『豚焼肉丼』。リサイクル・ループで育てられた千葉県産の豚肉を、同じく県産のしょう油を使った特製タレで炒めたもの。



ループ【右下図参照】）による豚肉を使用した商品を発売しました。ファミリーマートはどのようにしてそれを実現したのでしょうか。

リサイクルの輪をつなげるために

「リサイクルがスムーズに機能するには、収集・運搬や飼料化を手掛ける事業者はもちろん、原料となる販売期限切れ商品を提供する加盟店の協力が欠かせません」（社会・環境推進部 新井弘之さん）

従来、廃棄物の回収・運搬には自治体ごとに許可が必要なため、加盟店を巡回しての販売期限切れ商品の回収は非常に困難で、その際の運搬コストも課題となっていました。そこでファミリーマートは、農林水産省・環境省・経済産業省が進める「再生利用事業計画（食品リサイクル

ループ）」の認定を受けることで廃棄物処理法の特例に適用され、販売期限切れ商品の回収を広域で一括して行えるようになりました。さらに、その回収物を積み替えるための中継拠点を都内に設けることで、効率的に飼料製造工場へ搬入できるようになりました。

ファミリーマートのリサイクル・ループの特徴は、「リキッドフィーディング」による販売期限切れ商品のリサイクルを採用している点です。これは、回収物を原料にした液体飼料で豚を飼育する方法で、乾燥飼料にくらべ消化効率が良く豚の発育を促進し、飼料を乾燥させる工程がないため、製造時のエネルギー消費も低減できる仕組みとなっています。

また、販売期限切れ商品をできるだけ出さないようにすることも、重要な取り組みのひとつです。日々の天候や店舗ごとの立地条件によって、商品の売れ行きは変わってきます。そのためファミリーマートは、地域情報の共有やスーパーバイザーの育成によって商品発注の精度を上げ、少しでも販売期限切れ商品を減らすことに努めてきました。そうすることで、加盟店の

販売期限切れ商品が生まれ変わって再び店頭へ

東京都内120店舗のファミリーマートから保冷車で回収された販売期限切れ商品①が、都内の中継地点での積み替えを経て②飼料製造工場へ（中食製造工場から出た生ごみも飼料製造工場へ：③）。⇒容器や包装袋などを取り除いた原料を液状に加工④。⇒製造された液体飼料は養豚場へ運ばれ、各豚舎に送られて給餌される（＝リキッドフィーディング：⑤）。⇒出荷された豚は加工され、中食製造工場でお弁当などの商品となって⑥、再びファミリーマートの店頭で販売⑦。

コスト面での負担を軽減しつつ、販売期限を迎えてしまう商品をリサイクルするための協力を得ることも可能としたのです。

このような努力により、ファミリーマートはリサイクルの効率化、コスト削減、協力加盟店の拡大を実現してきました。今後も、さらに対象店舗を増やすことで、より大きな販売と回収の輪を広げていく予定です。